

登録コード	FS109500	開講年度	2026				
授業題目	研究者倫理特別講義					担当教員	米倉 真一 他
英文授業名	Special Course on Research Integrity					副担当	樋笠 知恵
単位数	2	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	総合理工学研究科1年生
講義室			授業形態	講義	備考		
信大コンベンション	非該当						
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】					【授業の達成目標】	
	26FS加・繊維学, 23FS加						
	【研究科共通】人類、社会の平和的・持続的発展のために、研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観					・研究者・技術者として責任ある研究行為とはどのようなものか、その基本的な理念は何かを理解している ・修士学生として責任ある研究行為に基づいて研究を実施し、学習する上での基本的な行動規範を習得できている	
(2)授業の概要	本授業は、総合理工学研究科修士課程学生が、研究者・技術者として研究者倫理に関する見識を深め、倫理観を身につけることを目的とする。 開講時の入門講義（講師：本学副担当及び外部有識者）により、研究者倫理（研究公正）に関する基礎知識の習得を図り、その後、研究者倫理e-ラーニングプログラム「eAPRIN」を受講する。次いで、研究者倫理の専門家による集中講義を受講し、対象学生を分野横断的に配置したグループディスカッションを実施する。これらにより、「eAPRIN」で取得した知識を踏まえ、研究者・技術者としてのあるべき倫理的行為、してはならない不正行為について理解の深化を図る。 一連の講義及びグループディスカッションを通じて、受講学生がその後の修士学生としての学習・研究生活を送る上での基本的な倫理指針を習得できるような内容とする。						
(3)授業計画	a) 研究者倫理入門講義：eALPSにて視聴 4月初旬 - 全体ガイダンス：樋笠 知恵 医学部公正研究推進講座 助教 - 講義「科学者の社会的責任と研究倫理」長井 寿 物質・材料研究機構 名誉研究員、公正研究推進協会 専務理事 b) 研究者倫理 e-ラーニングプログラム「eAPRIN」：4月～5月 - e-ラーニング教材「eAPRIN」のうち、必須7単元（「JSTコース（2）（理工系）」7単元）及び選択2単元（「技術と社会」、「技術者倫理」、「技術開発におけるリスクマネジメント」、「情報技術に関する倫理」から2つを選択。）の合計9単元を各自で履修する。それぞれの単元について英語版あり。 c) 研究者倫理学習グループディスカッション：5月～6月（ZOOMにて実施） - 研究者倫理に関する特定の2課題について、指定するグループに別れたディスカッションを行う。グループディスカッションの結果は、課題ごとにそれぞれ2枚のスライドにまとめて、期日までに提出する。 d) 研究倫理集中講義：eALPSにて視聴 6月初旬 - 講義：長井 寿 物質・材料研究機構 名誉研究員、公正研究推進協会 専務理事 - 講義：樋笠 知恵・片上 幸美 医学部公正研究推進講座 助教 e) 期末レポート：eALPSで提出 7月中旬 - 集中講義終了後、特定の課題を設定し、講義全体を通じて得た知見をまとめたレポートを課す。 - 学生同士でピア・レビューを行う。各自2名程度から記名付きコメントをもらい、レポートに記載して提出する。						
(4)成績評価の方法	e-ラーニングの受講、グループディスカッションへの参加（グループディスカッション成果物の提出）、及び期末レポートにより評価する。e-ラーニングの修了は単位を得る上で必須とする。配点は以下のとおり。提出状況・内容による評価を行う。 e-ラーニング：15点 グループディスカッション：25点 期末レポート：60点						
(5)成績評価の基準	e-ラーニングによって研究者倫理の基本的な専門用語や概念を身につけて、それらを用いてレポート課題がまとめられているかを評価し、上記の評価方法の総合点によって評定する。 - 合格水準にある（69点～60点）：研究者倫理に関わる基本問題を説明し、課題に対する既存の見解が提示されている。 - やや上にある（79点～70点）：研究者倫理に関わる応用課題を指摘し、課題に対する既存の見解が提示されている。 - かなり上にある（80点以上）：研究者倫理に関わる応用課題を指摘し、課題に対する既存の見解に加え、自身の見解が適切に示されている。 - 卓越している：「かなり上にある」のうち、示された内容が教員を感心させるレベルにあるもの。						
(6)事前事後学習の内容	4月入門講義、6月集中講義は、eALPSにて公開する動画を十分に視聴し、内容を深く理解すること。 - e-ラーニング受講後は、研究者倫理に関連する文献、WEBなどで調べ、知識の定着を図ること。 - グループディスカッションは、講義やe-ラーニングの内容を振り返り、自身の意見を用意しておくこと。 - 期末レポート作成後は、学生同士でピア・レビューを行い、他の研究者の考え方を聞くことで理解を深めること。						
(7)履修上の注意	上記(3)c)で触れたグループディスカッションについては、成績評価の対象になることから、メンバー間で不平等感が生まれないように各自積極的に参加すること。						

(8)質問,相談への対応	電子メールにて質問・相談を受け付ける。 樋笠 知恵 医学部公正研究推進講座助教：hikasa(アットマーク)shinshu-u.ac.jp 片上 幸美 医学部公正研究推進講座助教：katagami_y(アットマーク)shinshu-u.ac.jp
(9)授業の形式	
(10)学生へのメッセージ	
【教科書】	教科書は用いません。
【参考書】	参考資料は「履修の手引き」等により周知します。